

選 挙 公 示
2020年5月7日

日本気象学会九州支部選挙管理委員会
選挙管理委員 松本 積・蛇嶋 成一

第41期日本気象学会九州支部理事の選挙について

標記について、下記のとおり選挙を実施します。

今回は候補者数が理事定数の枠の中に入っているため、信任投票となります。

記

1. 候補者氏名（届出順）

鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授
尾崎 友亮	福岡管区气象台・気象防災部長
廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院・教授
栗原 めぐみ	(株)熊本放送報道部・気象キャスター
竹村 俊彦	九州大学応用力学研究所・教授
益子 直文	鹿児島地方气象台・台長
富田 智彦	熊本大学大学院先端科学研究部・准教授
梶原 靖司	福岡管区气象台・台長
林 政彦	福岡大学理学部地球圏科学科・教授

2. 理事の定数 概ね8名

3. 投票の方法 無記名の信任投票となります。
郵送された立候補者の所信を参考に、投票用紙に信任の場合○を、不信任の場合×を記入し、郵送ください。
○×以外が記入されている場合（無記入を含む）は、その候補者に対する投票は無効とします。

4. 投票締切日 2020年5月25日（月）（必着）
※5月7日に投票用紙および立候補者の所信等を発送しました。万一数日たっても投票用紙等が届かない場合は、九州支部選挙管理委員会までご連絡ください。

5. 投票用紙送付先 〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36
福岡管区气象台 気象防災部防災調査課内
日本気象学会九州支部 選挙管理委員会
電話：092-725-3614 e-mail: info@msj-kyushu.jp

第 41 期日本気象学会九州支部理事選挙候補者

ふりがな 氏名： すずき けんじ
鈴木 賢士

職業： 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授

所信： 気象学は私たちの生活に最も密接に関係する身近な科学のひとつです。しかしながら、高校での地学授業が少ないなど、災害大国の日本における地球科学教育が特に若い世代で十分でないことを痛感しています。九州支部ではジュニアセッション in 九州を開催するなど継続的に活動していますが、私は教育や研究に携わる者として、支部の活動が将来を担う若者の理科教育という形になり、またそれが防災・減災といった形で多くの世代に広がっていくよう、引き続き微力ながら学会および支部活動に尽力したいと思います。

ふりがな 氏名： おざき ともあき
尾崎 友亮

職業： 福岡管区気象台・気象防災部長

所信： 平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風など、近年、大きな被害をもたらす気象災害が頻発しています。こうした気象災害の防止・軽減において、防災気象情報の内容や伝え方の改善を図ることは大切ですが、防災気象情報の基幹を支えるのは科学に基づいた様々な学術的研究であり、気象分野における研究の発展と研究成果の適切な社会実装が極めて重要です。防災に資する気象情報の高度化が求められる中、気象学の発展を支える日本気象学会の役割や、気象分野における研究と防災との連携の重要性はますます増してきていると感じています。学術研究と防災行政のつなぎ役として微力ながら努めて参りたいと考えております。

ふりがな 氏名： ひろおか としひこ
廣岡 俊彦

職業： 九州大学大学院理学研究院・教授

所信： 私は、第 36 期から第 40 期において、日本気象学会理事ならびに日本気象学会九州支部常任理事として、本部と九州支部の連携に努めると同時に、支部発表会、気象教室、気象サイエンスカフェ in 九州などの支部独自の取り組みを、九州支部事務局の方々とともに進めて参りました。第 41 期においても、これまでの経験を生かし、これからの社会を担う若い世代へと学会の裾野を広げるとともに、気象学、大気科学の研究成果の社会への還元を進め、九州・山口地区の学会活動をより活発なものにするよう努力していく所存です。

ふりがな 氏名： くりはら めぐみ
栗原 めぐみ

職業： (株)熊本放送 報道部・気象キャスター

所信： 私はこの 2 年間、気象予報士と気象学会を繋ぐ役目を担う理事として務めてまいりました。初めての理事業務で戸惑うこともありましたが、皆様のご協力のもと、任期中の最も大きな仕事であった福岡開催の秋季大会も、大きな問題なく終えることができました。今後も気象予報士会との良好な関係を持続するため、ここからの 2 年も理事として務めたいと考えています。現在、気象学会も気象予報士会も、会員数の減少など、似た課題を抱える中、両者が協力して解決してゆく糸口も見つけてゆきたいです。また、気象学や防災知識について、より正しく細かな情報を一般に広げるべく、報道機関と専門家との橋渡し役としても役立ちたいと考えます。

ふりがな 氏名： たけむら としひこ
竹村 俊彦

職業： 九州大学応用力学研究所・教授

所信： 日本気象学会においては、現在、気象研究コンソーシアム運営委員会・山本賞候補者推薦委員会・地球環境問題委員会・国際学術交流委員会の各委員を務め、以前には気象集誌編集委員でもありました。また、気象庁・文部科学省「気候変動に関する懇談会」委員も務めております。これら中央での動向を意識しながら、九州支部においても、学会活動へより直接的に貢献できればという思いで立候補致します。エアロゾル（PM2.5・黄砂など）の予測を毎日運用して無償で情報提供している経験や、気候変動・大気汚染の一般向け記事を執筆している経験を活かして、気象・気候変動の正しい知識を普及するための活動を広げられればと考えております。

ふりがな 氏名： ますこ なおふみ
益子 直文

職業： 鹿児島地方気象台・台長

所信： 近年は、過去に経験したことがないような大雨などの顕著な気象現象により、大きな災害の発生が多くなっています。そのような中、気象現象の科学的解明などの学術研究を通じて、災害の防止・軽減のみならず市民の安心・安全な社会生活に貢献する日本気象学会には、ますます重要な役割が求められていると考えます。気象台においても気象災害から命を守るための取組を強化・推進しているところであり、気象学会の活動に気象行政の立場からも貢献したいと考えています。

ふりがな 氏名： とみた とみひこ
富田 智彦

職業： 熊本大学大学院先端科学研究部・准教授

所信： 九州は、日本の西端付近にあって毎年のように大雨に見舞われています。例えば 2019 年 8 月の九州北部の大雨は、記憶に新しい気象災害事例として挙げられます。社会においては、このような気象災害に関するより深い理解、わかりやすい解説、命を守る行動への提言などが求められています。私は、大学教員として梅雨季の大雨に興味をもち研究、そして教育に携わっています。ここでの経験を生かし、また 38 期から 40 期までの支部理事としての経験を生かし、微力ながら気象学における学術研究の発展、解説、そして人材育成などの支部活動に貢献する所存です。

ふりがな 氏名： かじはら やすし
梶原 靖司

職業： 福岡管区気象台・台長

所信： これまで気象庁予報部において、気象防災情報の発信に関わる業務を行ってきました。今回、集中豪雨や台風襲来のリスクが高い九州を担当する上で、地域で培われた気象に関する知見を最大限活用するとともに、関係自治体等を含め、地域防災力を高めるため、日本気象学会九州支部の活動活発化に貢献したいと考えています。

ふりがな 氏名： はやし まさひこ
林 政彦

職業： 福岡大学理学部地球圏科学科・教授

所信： 気象が生活に及ぼす影響が顕著になり、社会的な注目度が高まっています。大学にも「気象のことを知りたい」と言って入学してくる学生が多くいます。同時に、気象に関する正確な知識の社会的な普及も重要性を増してきています。社会的な要請に気象学会と大学がどのように応えていったらいいのか、難しい課題と思いますが、学会員の皆さんとともに考え、九州支部の運営に微力ながら貢献出来ればと考えているところです。